

【様式】

平成29年度 学校マネジメントシート

学校名 (三重県立あけぼの学園高等学校)

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		○生徒一人ひとりが、あけぼの学園高校の生徒として「自信と誇り」を持ち、地域に貢献し地域から信頼される学校
(2)	育みたい 児童生徒像	○授業に真剣に取り組み、部活動や資格取得にも積極的にチャレンジし成果をあげる体験を重ねて達成感、やりがい、自尊感情を高め、「自信と誇り」を持っている。 ○制服をきちんと着こなし、ピアス等の装飾品は身につけず、髪も含め高校生としてふさわしい身だしなみを整えている。 ○登下校時に交通ルールやマナーを守り、相手の目を見て挨拶し、規律ある行動や、地域に学び貢献に努める取組等により、地域から信頼を得ている。 ○多様性を尊重して他の生徒に寛容な態度で接し、かつ共通の課題に対し協力して取り組んでいる。
	ありたい 教職員像	○目指す学校像の実現に向け、「チームあけぼの」の一員として自校の存在価値を高めている。 ○授業を大切にして学力向上を図るとともに、生徒の小さな成長の積み重ねに力を注ぎ、その成長を目にすることを自らの喜びとし、自らも成長しようとしている。 ○生徒及び教職員相互の多様性を尊重して寛容な態度で接し、かつ学校の抱える課題に協働して取り組んでいる。 ○様々な形で積極的に地域と連携・貢献し、地域とともに魅力ある学校づくりに取り組んでいる。

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<生徒> ○わかる授業、部活動の充実、安全・安心で楽しく充実した高校生活 <保護者> ○安心して楽しく過ごすことができる学校生活、学力向上・進路実現 <中学校> ○中学校に対する理解、多様な生徒の受け入れ、生徒個々への丁寧な指導と進路実現 <地域社会> ○学校・地域の連携強化、地域振興・活性化、学校の情報提供、地域の担い手育成 ○基礎学力、体力、コミュニケーション能力や社会的マナーを身につけた人材の育成	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待 <保護者> 安全・安心な学校 基礎学力の定着、進路実現 <中学校> 丁寧で親身な指導 多様な生徒の受け入れ 生徒一人ひとりの進路実現 学校の情報提供 <地域社会> 地域の担い手育成 社会的マナーを身につけた人材育成 地域行事などへの参加と地域貢献 学校の情報提供、開かれた学校づくり コミュニケーション能力の向上	連携する相手への要望・期待 <保護者> 学校の指導方針への理解・協力・連携 学校行事への参加と助言 <中学校> 教育活動の相互理解 生徒同士の交流と教職員間の連携 学習習慣の涵養 基礎学力の定着 目的意識の向上 <地域社会> 地域の子どもたちが本校への入学を希望 学校行事への参加と助言 教育活動への理解と協力 本校への求人確保とその増加 インターンシップの受け入れと協力
(3) 前年度の学校関係者評価等	○成果発表会にもっと地域の方が参観してもらえるような工夫があれば良い。 ○平成29年度入学生から着用することになった新制服は大変良い。 ○日頃からのあけぼの学園高校や教職員の取り組みは評価している。生徒の通学する姿は以前と比較にならないくらい良くなっている。引き続き頑張ってもらいたい。	

(4) 現状と課題	教育活動	<p>○授業の質の向上を目指して、年に2回授業公開を実施した他、基礎学力定着・育成支援事業に係る公開授業を実施した。校外からは一定数の参観者を得て参観シートの提出率も高いが、校内教員による相互参観はあまり活発ではない。基礎学力が定着していない生徒や様々な課題をかかえる生徒もいるので、学習指導や評価方法を工夫したり、特別な支援や配慮するなどの必要がある。</p> <p>○多くの生徒が授業・クラブ活動等に熱心に取り組み、全校集会での整列や聞く態度にも大きな改善がみられるようになってきている。一部の生徒指導上の違反を繰り返す生徒には根気強い指導を継続している。その際、担任や学年団に委ねることなく、全職員で指導し、普段から頭髪・服装に関して注意喚起していく必要がある。</p> <p>○資格取得については受験者数の増加が見られるものの受験級がまだ低いので、1度の合格で満足させずさらに上の級の受験を促したい。各種検定試験はその性質上、教科の授業と深く関わっているので、教科担当者からの受験への働きかけが有効である。また担任は進路指導の観点からも資格取得の有効性を生徒に説いていき、クラブ活動についても、入学時に進路面で大きく活用できることを生徒に説明し、積極的な入部を図りかけていく必要がある。</p>
	学校運営等	<p>○情報発信については新聞やケーブルテレビを中心に報道されることが多いが、ポスターやチラシなどの定期的な配布など、中学生や保護者、地域に対する、より直接的な情報提供が必要である。</p> <p>○地域との連携や地域行事等への参加を通じて生徒の達成感や自己肯定感の向上などが期待される。今後も生徒の成長を柱に地域連携・地域貢献の取組を推進して学校活性化につなげるとともに、地域の活性化にも少しでも寄与していきたい。</p> <p>○教職員が健康で意欲を持って日々生徒の指導に取り組めるよう、ワーク・ライフ・バランスに留意し過重労働の防止やさらなるチームワーク向上を図っていくことなどが、小規模校である本校には大切である。</p>

3 中長期的な重点目標

教育活動	○生徒に基本的な生活習慣の確立やクラブ活動・資格取得等への積極的なチャレンジを促し、基礎学力やコミュニケーション能力・体力を向上させ、生徒一人ひとりの希望進路実現を図る。
学校運営等	<p>○情報発信を積極的に行い、地域のニーズを正確に把握した活動に取り組むことで、学校の活性化や地域貢献につなげる。</p> <p>○学校行事・会議・部活動等の精選・見直しも含め総勤務時間の縮減を図り、教職員が元気にいきいきと職務を遂行することができるよう努める。</p>

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
基礎学力・コミュニケーション能力・体力の向上	<p>(1) 生徒の実態に即した学習指導を工夫し、基礎学力を定着させる。</p> <p>【活動指標】 授業公開及びテスト前補習を各2回以上実施する。</p> <p>【成果指標】 レッドカードの件数が昨年度より減少する。</p>	(年度末および適宜記載)	

生徒指導の 充実	(1)「そとみ」の指導に取り組む。 【活動指標】 頭髪服装指導を行い、規律に則った学校生活を励行させる。 【成果指標】 違反総数が昨年度より下回る。		
クラブ活動・ 資格取得の 推奨	(1)生徒自身が学ぶ姿勢を身につけ、積極的に資格取得に挑戦するよう働きかける。 (2)クラブ活動に参加するように積極的に働きかける。 【活動指標】 SHR、LHR、進路行事等を通して、資格取得やクラブ活動について、案内やガイダンスを行う。 【成果指標】 資格試験、検定等の受験者やクラブ活動に参加している生徒数が昨年度を上回る。		
キャリア教育 の充実	(1)すべての生徒が進路を決定して卒業することを目指す。 【活動指標】 生徒の希望を把握して、就職または進学に向けて指導する。 【成果指標】 すべての生徒が進路を決定して卒業する。		
改善課題			
(年度末に記載)			

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
情報発信・学校 活性化・地域貢 献	(1)人権だより「ことだま」を発行し、人権に関する話題や情報を提供するとともに、学校での生徒の様子や学習内容等を伝え、家庭での話し合いのきっかけを作る。 【活動指標】 生徒及び保護者を対象として人権だより「ことだま」を発行する。 【成果指標】 生徒アンケートにおける「人権に対する理解を深め、人権尊重の行動へつなげる」数値の向上。 (2)地域や中学校への情報発信を効果的にを行い、交流を進める中で教育活動の活性化を図る。	(年度末および適宜記載)	

	<p>【活動指標】 地域や中学校からの学校理解が進み、学校の活性化や地域貢献につながるよう、情報提供を効果的に行う。</p> <p>【成果指標】 地域アンケート（学校評価）で本校の教育活動の理解度が昨年度を上回る。</p>		
チームワークの向上・意欲の増進	<p>(1) 教職員のワーク・ライフ・バランス改善の取組を推進する。</p> <p>【活動指標】 定時退校日を原則として月1回以上。年休取得の奨励。部活動の休養日を週1回以上。</p> <p>【成果指標】 定時退校日の達成率90%以上。全教職員の年休取得日数10日以上。全部活動の週1回以上の休養日の実施。</p> <p>(2) 勤務時間の縮減に加えて、若い教職員が意見を言い、活躍できる機会を提供する。</p> <p>【活動指標】 学校マネジメント委員会から学校改善活動の提案を行う。</p> <p>【成果指標】 教職員の満足度調査(仕事のやりがい)が昨年度を上回る。</p>		
改善課題			
(年度末に記載)			

5 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	(年度末に記載)
---------------------	----------

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	(年度末に記載)
学校運営についての改善策	(年度末に記載)